

## 「あなたは悪くない」

松山容子

東京・強姦救援センタースタッフ

「東京・強姦救援センター」は、民間のボランティア団体で、主に電話相談をしています。センターの設立のきっかけは、女性の視点から強姦を告発したカナダ映画「声なき叫び」(1978年、アンヌ・C・ポアリエ監督)の上映運動でした。この運動を進めていくうちに、単に啓発するだけでなく、実際に被害を受けた女性たちを支援しようと有志が集まり、1年の準備期間を経て1983年9月、日本で初めての強姦救援センターを開設したのです。スタッフはすべて女性のボランティアです。アドバイザーの弁護士、医師もすべて女性です。スタッフは6か月のトレーニングを受けて活動に参加します。財源は賛助会費と個人、団体からの寄付でまかなわれています。活動は週2回(水曜19時～22時、土曜15時～18時)の電話相談とパンフレット、ニュースの発行をしています。

センターでは次のように考えています。

- 1) 女性の望まないすべての性行為は強姦です。
- 2) 強姦は女性に対する支配、征服、所有が性行為という形をとった暴力です。

私たちが、電話を受けた時、被害者に伝えるメッセージは「あなたは悪くない」です。この一言が相談者になにより励ましになります。また、この言葉だけでも電話したかいがあったといわれることもあります。しかし、こちらがいくら言っても信じない人もいます。「私が悪かったんです」という言葉から始まって、理由を次々にあげてきます。しかし、それはそのまま彼女がまわりの人からいわれてきたことです。たとえば「そんなに夜おそく出歩いていたから」「派手な格好をしていたから」「どこかにスキがあったから」「自分にも問題があ

ったから」「死にものぐるいで抵抗すれば、そんな目にあわなかったのに」等々です。

これらのことはすべてまちがった常識です。けれどもこの常識にまどわされている人のどんなに多いことでしょうか。犯人さがしより原因さがし——それも加害者の側に求めるのではなく被害者の落ち度を問題にするのです。

また、まわりの人も被害者を支援するどころか、落ち度を責めるか無視するかです。これでは被害者は二重三重に傷つけられます。

「……女性と2人きりになった若い男性には、時として抑制できないほど強い性衝動が起こり、自制できなくなることもあること、それは、女性には想像できないほど強く激しいものであること、極言すれば、どのような男性でも、機会さえあれば、いつでも加害者になる可能性があることなど、男性の性的な欲求の強さとその充足欲とをよく理解させておく必要がある」

「被害を受けた生徒には、自分の服装や態度に問題がなかったかどうかを反省させ、今後の防止のためにはどうすればよいかについても十分考えさせるように指導することが大切である」などと性教育の副読本に書かれているのがこの国の実状です。まさに、被害者落ち度論の元凶ともいえます。

だからこそ私たちは電話を受けたとき「あなたは悪くない」とまず伝えるのです。その後に彼女がどうしたいのかを一緒に探していきます。

助産婦さんにも、同じ女性の立場から共感者となり、サポートをしていただければ幸いです。

(東京・強姦救援センター TEL 03(3207)3692 〒135 東京都江東区城東郵便局私書箱7号 振替 東京9-93421)